

コスタリカ内政・外交（2014年4月～6月）

【要旨】

内政

- 4月6日に実施された大統領選決選投票において、市民行動党（PAC）のルイス・ギジェルモ・ソリス候補がコスタリカ大統領選史上最高の130万票を得て勝利し、初のPAC政権が誕生することとなった。
- 5月1日に新国会議員が就任、新国会役員が選出された他、各党の会派長も決定した。
- 5月8日に大統領就任式が行われ、ソリス氏が第47代大統領に就任した。就任式終了後の閣議では新閣僚が任命され、ソリス新政権が本格的に開始することとなった。

外交

- 4月21日、エクアドルとの太平洋海洋境界が画定。これによりコスタリカはニカラグアを除く全ての隣国との海洋境界を画定させた。
- ソリス次期大統領は4月22日から24日にかけてSICAメンバー国のうち、ニカラグア、ベリーズを除く5カ国を訪問。各国首脳との会談等において、中米カリブ地域（メキシコ・コロンビア含む）を新政権の最優先地域とする外交方針を表明した。
- ソリス新大統領は6月9日から13日にかけて米国を訪問。ハイテクノロジー関連を中心とする積極的な投資を呼びかけた。4月に生産部門の撤退を発表したインテル社は、大統領との会談後、新たに大規模研究所をコスタリカに設立することを発表した。

【本文】

I. 内政

1. 大統領選決戦投票

(1) 4月6日に実施された大統領選決戦投票において、市民行動党（PAC）のルイス・ギジェルモ・ソリス候補が約130万票、77.8%の得票率となり、全ての県において圧勝した。今次勝利は、ソリス候補がコスタリカ大統領選史上最高の130万票を得たこと、初のPAC政権が誕生すること、国民解放党（PLN）とキリスト教社会統一党（PUSC）の二大政党制に終止符を打ったという意味で、歴史的勝利となった。

(2) ソリス氏は勝利演説において、「選挙結果には満足している。古い政治は終わり、市民が主役の時代が始まった。」と述べ、汚職対策、人権擁護、公私の峻別などの必要性に言及した。

(3) アラヤPLN候補は、開票速報直後に記者会見し、コスタリカでは3期連続同一政党による政権は不可能という暗黙のルールがあり、それに則った結果となった。また、民

意は変化を望んだことは明らかだと敗北を認め、ソリス氏に祝福の電話をした旨明らかにした。また、アラヤ氏は、PLNがソリス政権の失敗を望まず、建設的野党となる旨発言した他、次期PLN国会議員とは関係が続けるとしたが、自らがPLN会派のリーダーとなるかについては明言を避けた。

さらにアラヤ氏は、チンチージャ政権発足直後から、党内で次期大統領選を見据えたキャンペーンが始められたことは大きな誤りだったとの認識を示した。

(4) ラ・ナシオン紙はソリス氏の勝利に関し、「否定しようのない勝利」と題した社説を掲載し、以下のように述べた。

棄権率は高かったが、ソリス氏は途方もなく多くの票を獲得し、疑いようのない勝利を得た。我々はこれを祝福する。しかし、第一回投票や国会の議席配分に現れているように、コスタリカ社会は分裂している。国民は変化を望んでいるが、変化の中身は多様である。今回の決選投票の結果を、新政権への白紙委任と捉えるのは大きな誤りである。新政権には難題が待ち構えている。様々な勢力との対話を通して合意を形成していくことが重要である。

(5) 4月7日、ソリス次期大統領は、ラ米、欧州及び米国等の友好国から祝辞を受け取った。米国はケリー長官のコミュニケとして、両国は民主主義、人権等の価値に裏付けられた友好関係にあり、オバマ政権は今後、ソリス次期政権とエネルギー、治安、経済成長等の共通の利益に関して協力していく用意があると発表した。

また、コレア・エクアドル大統領、モラレス・ボリビア大統領、ペニャ・ニエト・メキシコ大統領が電話で直接ソリス氏に祝意を伝えた他、マドゥーロ・ベネズエラ大統領もソリス氏に電話し、選挙で高い支持を得たことを称えた。中米域内では、ペレス・グアテマラ大統領、ミランダ・エルサルバドル外相が最初に祝意を示した。また、仏及びOASもメッセージを発出している。

2. 新国会の成立

(1) 新国会役員の選出

5月1日、新国会議員が就任し、2014年度の国会役員選出投票が行われた。投票の結果、市民行動党(PAC: 13議員)、広域戦線(FA: 9議員)及びキリスト教社会統一党(PUSC: 8議員)が連携した与党連合が合計30票を獲得して勝利し、以下の役員を選出した。

1. 国会議長：ヘンリ・モラ (Henry MORA) PAC、55歳、エコノミスト
2. 副議長：マルセラ・ゲレロ (Marcela GUERRERO) PAC、43歳、政治学者、女性
3. 第一書記：ルイス・バスケス (Luis VASQUEZ) PUSC、43歳、弁護士
4. 第二書記：ホルヘ・ロドリゲス (Jorge RODRIGUEZ) PUSC、61歳、弁護士
5. 第一副書記：ニディア・ヒメネス (Nidia JIMENEZ) PAC、59歳、教員、女性

6. 第二副書記：ラウラ・ガロ(Laura GARRO) P A C、6 3 歳、企業経営、女性

今般の役員選出投票に際しては、与党はP A Cを中心に、野党は国民解放党（P L N）を中心にそれぞれ連合が形成され、過半数獲得のための交渉が投票直前まで続けられた。その結果、野党側が最終的にまとまりを欠いたのに対し、与党側は、P A CがF A及びP U S C両党の重視する優先法案を受け入れることを条件に、過半数を超える連合形成に成功した。

(2) 各党の会派長選出

5月1日、各党の会派長が以下の通り選出された。

1. 国民解放党（P L N、1 8 議席）

会派長：フアン・ルイス・ヒメネス(Juan Luis JIMENEZ)

副会派長：カルラ・プレンドス(Carla PRENDAS)

2. 市民行動党（P A C、1 3 議席）

会派長：エミリア・モリーナ(Emilia MOLINA)

副会派長：ヘンリ・モラ(Henry MORA)

3. 広域戦線（F A、9 議席）

会派長：ヘラルド・バルガス(Geraldo VARGAS)

副会派長：エドガルド・アラヤ(Edgardo ARAYA)

4. キリスト教社会統一党（P U S C、8 議席）

会派長：ラファエル・オルティス(Rafael ORTIZ)

副会派長：ロシベル・ラモス(Rosibel RAMOS)

5. 自由運動党（M L、4 議席）

会派長：オット・ゲバラ(Otto GUEVARA)

副会派長：カルメン・ケサダ(Carmen QUESADA)

6. コスタリカ刷新党（R C、2 議席）

会派長：ゴンサロ・ラミレス (Gonzalo RAMIREZ)

副会派長：アベリノ・エスキベル(Avelino ESQUIVEL)

7. 排除なき参画党（P A S E、1 議席）

会派長：オスカル・ロペス(Oscar LOPEZ)

8. 国家復興党（R N、1 議席）

会派長：ファブリシオ・アルバラド(Fabrizio ALVARADO)

9. キリスト教民主同盟（A D C、1 議席）

会派長：マリオ・レドンド(Mario REDONDO)

5. 新閣僚の選出

5月5日、以下のとおり次期閣僚名簿が出そろった。

(1) 大統領府大臣

メルビン・ヒメネス・マリン(Melvin JIMENEZ MARIN)、57歳、社会学者、神学者

(2) 財務大臣 (副大統領)

エリオ・ファジャス・ベネガス(Helio FALLAS VENEGAS)、67歳、経済学者、元国家計画経済政策大臣(90~94)、元住宅大臣(02~05)

(3) 外務大臣

マヌエル・ゴンザレス(Manuel GONZALEZ)、46歳、弁護士、輸出商工会議所副会頭、元貿易大臣(04~06)、元ジュネーブ代表部大使

(4) 貿易大臣

アレクサンデル・モラ(Alexander MORA)、50歳、エコノミスト、情報通信技術会議所会頭、元コスタリカ銀行副総裁

(5) 内務警察公安大臣

セルソ・ガンボア(Celso GAMBOA)、37歳、弁護士、犯罪学者、内務警察公安次官(現職)、国家安全保障情報局(D I S)長官(現職)、元司法警察(O I J)調査官

(6) 公共事業交通大臣

カルロス・セグニーニ(Carlos SEGNINI)、44歳、弁護士、元コスタリカ工科大学(TEC)法務部長、元住民擁護官地方調整官

(7) 法務大臣

クリスティーナ・ラミーレス(女性)(Cristina RAMIREZ)、43歳、弁護士、憲法学博士、元国会法務部長、元最高裁検事

(8) 環境エネルギー大臣

エドガル・グティエレス(Edgar GUTIERREZ)、58歳、生物統計学博士、コスタリカ大学人間開発教授、UNDPコンサルタント

(9) 科学技術大臣

ジセラ・クーペル(女性)(Gisella KOOPER)、56歳、食糧学専門家、元コスタリカ大学副農学部長

(10) 住宅大臣

ロセンド・プホル(Rosendo PUJOL)、62歳、都市開発学博士、コスタリカ大学都市開発研究所長

(11) 文化大臣

エリザベス・フォンセカ(女性)(Elizabeth FONSECA)、64歳、歴史学者、元PAC国会議員(2006-2010)、元PAC党首

(12) 保健大臣

マリア・エレナ・ロペス(女性)(Maria Elena LOPEZ)、67歳、小児科医、シウダ・デ・コロン診療所長、元保険省幼児医療ユニット長

(13) 国家計画経済政策大臣

オルガ・マルタ・サンチェス（女性）(Olga Marta SANCHEZ)、61歳、社会学者、元ナショナル大学副学長、元コスタリカ大学社会学部長

(14) 公共教育大臣

ソニア・マルタ・モラ（女性）(Sonia Marta MORA)、60歳、文学博士、元ナショナル大学学長、国立高等教育認証機構（SINAES）総裁

(15) 労働・社会保険大臣

ビクトル・モラレス・モラ（Victor MORALES MORA）、56歳、弁護士、アセリ市長（現職）、元労働・社会保険大臣、元国会議員

(16) 経済商業大臣

ウィルメル・ラモス(Wilmer RAMOS)、53歳、経済学者、PAC国会会派経済顧問、フィデリタス大学教授

(17) 農牧大臣

ルイス・フェリペ・アラウス(Luis Felipe ARAUZ)、56歳、農業エンジニア、植物病理学博士、コスタリカ大学農業食糧学部長

(18) スポーツ大臣

カロリナ・マウリ（女性）(Carolina MAURI)、44歳、弁護士、コスタリカ大学法学部教授、気候変動交渉官、元五輪水泳選手（88年ソウル五輪）

(19) 観光大臣

ウィレム・ボン・ブレイマン・バルケロ(Wilhelm VON BREYMANN BARQUERO)、52歳、旅行業経営者

(20) 女性大臣

アレハンドラ・モラ・モラ（女性）(Alejandra MORA MORA)、48歳、弁護士、女性問題専門家

(21) 社会福祉開発大臣

カルロス・アルバラド(Carlos ALVARADO)、34歳、政治評論家、ジャーナリスト

4. 大統領就任式

(1) 5月8日、国立スタジアムにおいて大統領就任式典（権限委譲式典）が実施され、新旧政府関係者、国会議員、各国代表団及び多くの一般国民が参加した。ソリス新大統領は11時46分に大統領就任の宣誓を行い、第47代大統領に就任した。（我が国特派大使として石原外務大臣政務官が出席）

その後ソリス大統領は約30分間、要旨以下の演説を行った。

●歴代政権に愛想を尽かした国民は変化を望み、政治の春をもたらした。透明性、アカウンタビリティ、市民参加、環境保護、マイノリティの人権保護等に基づいた行政が今こそ

求められている。

●我々はあらゆる政治的対立を超えて、近年の多様なコスタリカ社会を尊重する全てのグループと対話をしていく。その多様性は、国会に過半数を持つ政党がないことにも反映されている。国会の独立性を尊重し、すべての議員と対話する。

●これまでの経済モデルは成長をもたらしたが、一部だけがその恩恵を受け、格差が広がってきた。我々は、個人の利益を超えた共通の利益を模索していく。

●我々は透明性ある政府を作っていく。今日から、政府のすべての活動について、迅速かつ正確に情報公開していく。そのためにITを最大限活用する。今後、大統領執務室は「ガラスの家」になる。

●コスタリカの民主主義と財政を蝕んできた汚職と闘い、国民の政治への信頼を取り戻す。

●対GDP比6%近い財政赤字問題対策として、徴税を強化し、2年以内に解決への道筋を示す。

●国内生産を拡大し、社会格差を縮める。そのために農業セクターへのファイナンス支援を実施する

●競争力強化及び雇用対策のために、これまでの投資誘致に加えて、インフラ整備、電力価格低下、対中小企業融資を進める。

●公共教育強化（予算を憲法の規定に従ってGDP 8%まで引き上げる）、社会保険庁の立て直しを進める。

(2) 今次式典は、ソリス大統領の意向により、華やかな演出を控えた簡素な式典となった。また、恒例のカトリック司教による祈りの時間がなく、観光大臣は同性パートナーとともに入場する等、過去の式典と比べて異例の光景も見られた。

(3) 出席した各国元首は、コリア・エクアドル大統領、モラレス・ボリビア大統領、ペレス・グアテマラ大統領、エルナンデス・ホンジュラス大統領、メディーナ・ドミニカ共和国大統領で、マルティネリ・パナマ大統領は直前にキャンセルし、代わりにデ・ソト外相が出席した。その他、サンチェス・エルサルバドル副大統領（次期大統領）、フェリペ・スペイン皇太子、アレアサ・ベネズエラ副大統領、エスピノサ・ペルー第一副大統領、ブドゥ亜副大統領、ベヘラノ・キューバ国家評議会副議長、マッカーシー米環境保護庁長官、ミード墨外相、オルギン・コロンビア外相、韓長賦・中国農業部長、インスルサOAS事務局長等が出席した。フェリペ皇太子は式典会場で最大の喝采を浴び、訪問した各地で人々に囲まれ写真を頼まれるなど、一番の人気ぶりを示した。ニカラグアからは、オルテガ大統領ではなくハリスリーベンス副大統領が出席した。同副大統領は記者団に、「チンチージャ政権は終了した、これからは前を向こう。大統領の交代により新たな期待も生まれる。」と述べたが、ソリス大統領とは会談しなかった。

(4) 就任式終了後には閣議が行われ、新閣僚が任命された。全閣僚はその場で倫理協約に署名し、公職と私的ビジネスの区別、出張を必要最小限に抑える、公用車の私的利用禁止等の規定を守れない場合は辞職することを約束した。また、メルセデス・ペニャ夫人（ソ

リス大統領と事実婚)が、06年以来空席となっていたファーストレディーとなり、大統領府内に事務所を構えることとなった。

4. 教員スト

5月5日から約一箇月間、公立学校教員組合による全国的なストが行われた。これは、チンチージャ前政権が導入した新給与支払いシステムが一部機能せず、多くの教員の給与が数ヶ月にわたって支払われなかったことが原因。4月の時点で一部はストを始めていたが、政権交代に伴い一端休止していたものが再び加熱し、全国規模に発展した。ソリス新政権は政権発足直後に、前政権が引き起こしたこの問題の対応に追われた。原因はシステムの技術的な問題であり、政権側は「全力で対応しており、早急に支払う。」と延べ、一部給与の前倒し支払いに応じるなど特別な対応を実施し、また、全国放送で政府の対応を説明し、「政府を信頼してほしい。子供達のために、授業に戻ろう。」と呼びかけたところ、組合側の多くが対話姿勢に転じ、6月初頭になり、政府と組合側の交渉が漸く妥結し、ストは終了した。

II. 外交

1. 中国・CELAC カルテット外相会談の実施

中国・CELACカルテット外相会談のために訪中したカスティージョ外相は、4月7日、王毅・中国外相と二国間会談を実施した。両外相は、07年の国交樹立以来の両国関係の進展をレビューした他、国際選挙等、マルチにおける協力についても確認した。また、両国関係は、相互信頼と相互利益の原則に則って進展し、それは、両国間の様々なレベルの相互訪問により実現されてきたことを確認した。

王外相は、CELACが迅速に強化され、マルチ会合の場で貢献してきており、また、中国はCELACに、ラ米諸国との協力強化の可能性を見いだしている旨発言した。二国間外相会談の後、中国・CELACカルテット外相会談が実施され、また、李源潮国家副主席との会談も行われた。

2. エクアドルとの太平洋海洋境界画定

(1) 4月21日、カスティージョ外相はエクアドルを訪問し、パティニーニョ同国外相との間で、「コスタリカ及びエクアドル間の太平洋における海洋境界画定協定」に署名した。両国間の太平洋における海洋境界画定については、2012年2月から交渉が開始された。両国は、1985年の両国間協定をベースに、国連海洋法条約の規定に則り、太平洋における両国間の海洋境界について、今般、最大限の明確性をもって画定するに至った。

(2) カスティージョ外相は、「今次署名により、両国間の歴史的友好関係は新たな時代に入る。両国は地域及び世界に対して、対話と平和的手段によって、主権に関する問題を解決できることを示した。」と述べた。また、両外相は今次合意が、国連大陸棚限界委員会に

提出予定の「大陸棚を200海里以上に拡大する決議案」を更に強化するとの認識を示した。

(3) 今次合意により、コスタリカは、ニカラグアを除く全ての隣国との海洋境界を画定させた。

4. ソリス次期大統領の中米諸国訪問

(1) 4月22日から24日にかけて、ソリス次期大統領はSICAメンバー国のうち、ニカラグア、ベリーズを除く5カ国を訪問し、各国大統領を5月8日の就任式に招待した。ソリスは各国首脳との会談において自らを「中米主義者」と称し、貿易、気候変動、貧困対策、麻薬対策等を中心に、中米統合を推進する旨伝えた。

ニカラグアについては、現在抱える領土問題においてコスタリカの主権を侵害しているとの理由で訪問せず、オルテガ大統領を大統領就任式に招待しない意向を示している。

(2) 22日、ソリス次期大統領はグアテマラにおいてペレス大統領と会談し、5月8日の大統領就任式に招待したが、ペレス大統領は外交上の予定が入っているとして、欠席する意向を伝えた。

23日、エルサルバドルを訪問したが、フネス大統領は健康上の問題を理由に会談をキャンセルし、オルティス次期副大統領と会談した。同日訪問したホンジュラスではエルナンデス大統領と会談した。24日、パナマを訪問したものの、フライトの遅れによりマルティネリ大統領との会談はキャンセルされた。同日訪問したドミニカ共和国では、メディーナ大統領と会談した。

5. ソリス次期政権の外交政策

4月28日に開催された外交団主催朝食会に、ソリス次期大統領がゲストとして出席し、次期政権の外交課題について述べた。

(1) ソリス氏の演説（優先外交課題）

●新政権の外交政策における最優先地域は、コスタリカが属する中米カリブ地域であり、ここには、歴史的関係の深いメキシコ及びコロンビアも含まれる。これまでコスタリカは中米統合に消極的だったが、自分は中米主義者であり、統合を積極的に進める。コスタリカにとって中米カリブ地域は様々な機会に溢れており、また、治安対策の意味でも重要である。

●中米カリブ地域に続く優先地域は、欧米諸国、南米諸国、太平洋諸国である。欧米諸国（北米及び欧州）とは歴史的な繋がりが深く、特に経済的な観点から、同地域に対して高い関心を有している。

南米諸国については、コスタリカはこれまで無関心だったと言えるが、本来重要な地域である。ラ米カリブ共同体（CELAC）議長国として、また議長国を終えて以降も、南米諸国とこれまで余り機会がなかった政治対話を開始・継続していきたい。

コスタリカ外交の新たなフロンティアとして重要なのが、今後の国際関係の新たな中心となる太平洋諸国である。日本及び韓国とは長い友好関係を有している上、中国とも新たな関係を構築し始めている。また、豪州、シンガポール、インド等とも対話を始めている。政治対話、経済関係、国際場裡での協力を進展させていきたい。

●このほかにも、中東諸国、BRICS（具体的にはロシア）等との関係も大事である。更に、コスタリカ外交の伝統であるマルチの重視、そしてマルチにおける人権、平和、軍縮、環境等の推進は継続する。今後、貿易政策の立案の中心は、貿易省から外務省に移ることになる。

5. ソリス大統領のエルサルバドル大統領就任式出席

ソリス大統領は、6月1日、日帰りでエルサルバドルを訪問し、サンチェス・セレン新大統領就任式に出席した。同国にてソリス大統領は、「エルサルバドルにおいて、地域統合の原則と価値を確認できた。」と述べた、

6. ペレス・グアテマラ大統領の当地訪問

6月6日、ソリス大統領は、当地を訪問したペレス・グアテマラ大統領と会談した。今次訪問は、ソリス政権発足以降初の外国首脳による公式訪問となった。会談は、両国の緊密な関係を反映し、敬意と信頼関係に基づいて行われ、実り多い対話となった。両大統領は、両国関係における政治、協力、治安分野における大きな潜在能力を活かすべく、本年後半に、両国間政治協議メカニズムを再開する旨合意した。また、両国間の技術、経済、科学、文化、スポーツ協力促進のため、技術協力枠組協定の妥結が重要である点で一致した。更に、ラ米カリブ諸国共同体（CELAC）の政治対話としての重要性を認めるとともに、ソリス大統領は来年1月26、27日にサンホセで開催予定の第3回CELAC首脳会合にペレス大統領を招待した。また、域内協力として、麻薬対策、環境保護、軍縮を特別にテイクノートした。ソリス大統領は、グアテマラにおける豪雨被害について連帯の意を表明した。

7. ソリス大統領の米国訪問

(1) ソリス大統領は6月9日から13日にかけて、米国のカリフォルニア、ニューヨーク及びワシントンを訪問し、ハイテクノロジー関連投資誘致活動を行い、ビジネスを行う上でコスタリカが戦略的な国であることをアピールした。今次訪問にはモラ貿易大臣、ロッシ・コスタリカ投資促進機構（CINDE）総裁、コスタリカ民間企業連合関係者が同行し、企業関係者との会合はCINDEがアレンジした。今次訪問では、インテル社とVMware社という2企業からの投資拡大という成果を得た。また、ソリス大統領は、多くのメディア（Wall Street Journal, Bloomberg, San Jose Mercury News, New York Times, CNN Espanol, fDi Magazine, Fortune, Reuters, CNN Money, The Street等）からのインタ

ビューを受けた他、ワシントンでは、ラテンアメリカン企業審議会(CEAL)、米州審議会(Consejo de las Americas)等の企業関係者との会合も行った。

8. 中国借款事業の見直し

(1) 6月12日、セグニーニ公共事業交通大臣が国会において、中国借款による32号線(首都サンホセとカリブ海側の都市リモンを結ぶ主要道路)拡張事業について、政府として中国と借款条件を再交渉する旨決定したので、現在国会で審議中の関連法案審議を4ヶ月間中断するよう議員に要請した。

同大臣は、未だ中国に再交渉の要請はしていないが、条件の改善がなされれば、本件事業を推進するとの立場を表明した。また、同大臣は、総額395百万ドルに上る本件事業を現時点で承認できない理由として、拡張に伴う土地収用や水道管移設に係る経費見積もりの根拠が乏しいこと、事業に係るあらゆる紛争が中国の裁判所に付託されることはコスタリカの主権侵害にあたること等を挙げている。一方、一部野党議員は、政府には代替案がなく、中国との再交渉が成立しなければこの拡張工事が葬り去られると批判している。

(2) 同日、米国訪問中のソリス大統領は、セグニーニ大臣が国会で説明した政府の立場を再度表明するとともに、右に関連し、本年中に習近平国家主席と二度にわたり会談する意思を表明した。一つ目は、7月中旬にブラジルで予定されているBRICS首脳会合に、ラ米カリブ諸国共同体(CELAC)を代表して出席するもの。二つ目は、10月末に中国において中国CELAC対話が行われる機会を利用したもの。中国CELAC対話には各国外相が出席予定だが、コスタリカはCELAC議長国としてソリス大統領が出席予定。ソリス大統領は、この中国訪問の機会に習近平主席と二国間会談を行い、借款事業の再交渉を行いたいとしている。